

第 35 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

第 4 回社会教育委員会議	
開催日時	令和 5 年 1 月 16 日（月） 午後 3 時～午後 5 時
会 場	クロスパルにいがた 4 階 403、404 講座室
出席者	<p>【社会教育委員】 雲尾 周、小倉 壮平、角野 仁美、佐藤 裕紀、清水 隆太郎、司山 園美、 白神 道子、竹田 暢美、平山 智康、山岸 則子 計 10 名 ※敬称略</p> <p>【講師】 公益財団法人新潟県国際交流協会、公益財団法人新潟市国際交流協会 計 2 名</p> <p>【事務局】 地域教育推進課課長補佐、中央公民館長、中央図書館長、生涯学習センター職員 3 名 計 6 名</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 第 64 回全国社会教育研究大会広島大会 参加報告 ○報告資料 1 に基づき、雲尾議長が参加報告を行いました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>(2) 第 53 回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会 参加報告 ○報告資料 2 に基づき、佐藤副議長が参加報告を行いました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>(3) 第 22 回新潟県社会教育研究大会三条大会 参加報告 ○報告資料 3-1～3-5 に基づき、参加した 6 名の委員より報告を行いました。 (代表報告：清水委員、紙面報告：角野委員、白神委員、竹田委員、平山委員、 山岸委員) 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>(4) 令和 4 年度新潟市二十歳のつどい 開催報告 ○報告資料 4 に基づき、令和 5 年 1 月 8 日に開催された令和 4 年度新潟市二十歳の つどいについて地域教育推進課から報告を行いました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>(5) 令和 4 年度新潟市社会教育委員会議日程 ○報告資料 5 に基づき、事務局が令和 4 年度の社会教育委員会議日程及び、各種研 究大会の日程等について説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>3 協議事項</p> <p>(1) 令和 5 年度社会教育関係団体補助金について ○協議資料 1 に基づき、事務局が社会教育関係団体補助金について説明しました。</p>

<p>内 容</p>	<p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度減額された補助金が、来年度以降増額されることはあるのか。 ⇒計画的・段階的に減額を行っているため、基本的に増額になることはない。 <p>(2) 今後の調査研究等について</p> <p>○公益財団法人新潟県国際交流協会及び公益財団法人新潟市国際交流会館様より 県や市に在住する外国籍の方の実態等についてお話しいただきました。</p> <p>○今後の調査研究活動について意見交換を行いました。</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <p>○A「子どもと若者の参画を促すネットワーク」グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の「子どもと若者の参画」という考え方として、既存の組織、体制の中に若者に入ってほしいという論点で調査していくのか、若者の場所づくりとして今足りないものは何かという論点で研究をしていくのかを最初の視点として考えたい。 ・居場所づくりは公民館の使命になっているのでやっちはいるけれども、公民館によっての実施の差があり、多分、昔とはだいぶ変わっているのではないかと思う。 ・札幌市では、ユースセンターが400館くらいあって本当に多様な10代が参加している。札幌市は困難を抱える若者だけではなく、様々な層の子どもが受け入れられている雰囲気を感じられてとてもよかった。そのユースセンター的な視点で公民館を見直すことはできないだろうか。 ・「若者の活かし方」というユースセンターの話と、部活のところで言うと、「地域の大人たちの活かし方、子どもたちとの接点をつくり方」の両軸で見られたらとてもよい。 ・今現在ある既存の場のルールや仕組みを少しずつ変えていくことがどうしても必要になってきている。どのように変えていったらいいのかという例を札幌に聞いてみたい。 ・小中学生の居場所をどうしていくのが一番の問題だと思っている。ひまわりクラブでは、利用する子どもの人数が激増し、学校や施設、職員がついていけないという実態がある。ふれあいスクールなどがあって、子どもが体育館に行けたり図書室に行けたりすれば、また状況が変わってくるのだろう。 <p>○B「共生社会の実現に向けた学びの在り方とネットワーク」グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の構成員として、外国籍の方が当事者として参加していく場や、そのための支援の在り方について、こういうことをしている、またはここが課題だということを教えていただきたい。 <p>(国際交流協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害のときは、外国人も支援される側だけではなくて支援する側に回ってもらいたいと思っている。特に留学生や技能実習生など、若い人たちは力がある人たちばかりなので、そういう人たちにはできるだけ主体的にかかわってもらいたい。 ・社会調査では、「何かしらのコミュニティに属していますか」という質問に、8割が「属していない」という回答だった。2割しか属していないということ。だから、そのコミュニティをつくる手伝いをやらないといけないのかなと思っている。 ・新潟の国際交流協会として社会教育施設とのかかわりはあるのか。「もっとこういうことができるのではないか」と思うことはあるか。 <p>(国際交流協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害の話になるが、外国人は「自分は避難所に行ってはいけない」「避難所は日本
------------	---

<p>内 容</p>	<p>人だけの施設」だと思い込んでいる場合がある。もしかすると図書館や公民館も日本国籍の人しか行ってはいけないという思い込みがあるのかもしれない。だから、ちょっとした翻訳とか、やさしい日本語とか、そういうものがあると、外国人も受け入れられているのだと感じることができるのではないか。中央図書館であれば「セントラルライブラリー」など何言語かで書いておくだけでも、外国人は「私たちも行っていいのだな」という意識になるのだと思う。やさしい日本語は外国人だけのものではなくて、高齢者の方や子どもさんにとっても必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちが知らないだけで、いろいろな取組があるということを感じた。お話をお聞きしながら、社会教育という視点で何が必要になってくるのかを考えている。社会教育施設がもっと多言語対応するような支援など、何があるといいのかなということを考えている。 <p>(国際交流協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生に向けてやらなければならないことがたくさんあり、どこから手を付けていいかわからないのが現状である。まずは、「やさしい日本語を皆で話せるようにしてみる」のような取組から入ることもあると思う。 ・多言語化するというのが一番大事。多言語化に向けて取り組んでいる期間のタイムラグを埋めるために、やさしい日本語を使うという考え方が基本となる。 ・小学校現場では、総合的な学習の時間に障がい者福祉や高齢者福祉について学んでいる。けれども外国の方に対するかわり方というのは、今、ほとんどテーマにしている学校はないのではないか。イベント的なことは今までもやっているが、カリキュラムとして取り入れ底辺を広げていくというのは、本当に不可欠だと思う。 <p>4 その他 ○第 5 回の会議について、令和 5 年 3 月 3 日（金）午後 3 時からクロスパルにいがたで開催することを確認しました。</p> <p>5 閉会</p>
<p>傍聴者</p>	<p>0 名</p>
<p>会議資料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第 35 期新潟市社会教育委員会議（第 4 回）次第 ・報告資料 1 第 64 回全国社会教育研究大会広島大会参加報告 ・報告資料 2 第 53 回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会参加報告 ・報告資料 3-1～3-5 第 22 回新潟県社会教育研究大会三条大会参加報告 ・報告資料 4 令和 4 年度新潟市二十歳のつどい開催報告 ・報告資料 5 令和 4 年度新潟市社会教育委員会議日程 ・協議資料 1 令和 5 年度社会教育関係団体補助金について